

大学女性協会東京支部

2011.3

第49号



法人改革と東京支部のこれから



JAUW副会長 阿部 幸子

当協会が法人改革に着手してから4年が経過し、今年はいよいよ内閣府への移行申請の時を迎えています。移行手続きに関しては、会報などでお知らせしてきましたが、若干の補足と共に東京支部の皆様にご説明をさせていただきますと思います。

- ・支部会費の現状 - 知ってください、東京支部のこと -
- ・東京支部国際奨学金について
- ・東京支部総会（4月16日(土)）のお知らせ

2月2日発行の会報「JAUW」に掲載されているように、本年5月に開催される岡山総会では、一般社団法人への移行認可申請のために必要な事項に関する議案が諮られることになっております。ここでは「定款の変更の案」、提出が義務付けられている公益目的支出計画に関連する基本財産の特定資産化、本部と支部の一元化に伴う会費改定（支部会費名目の徴収を廃止し、各支部共通の支部費を正会員会費に移入）など、新法人へ

の移行登記が完了した日から施行される案件が審議されます。

一般社団法人の申請が認可されると、現法人は一旦解散登記をした後に新たに新法人の設立登記をすることになります。解散の時点で保有している財産は清算しなければなりません。民法法人から新法人に移行する場合には、自ら公益事業を継続して清算する仕組みになっていきます。私たちは、従来から行ってきた公益事業を4つ選び（定款の変更の案）に記載の事業1から事業4、これらの経常収支の赤字に解散時の残余財産（公益目的財産）を充当することにより、この財産額がゼロになるまで消費する計画をたてており、約18年間で清算を終える予定です。

このような煩雑な作業により申請時には支部の会計処理に多少のご負担をかけることもありますが、支部の事業はこれまでと変わりはありません。今後は共益事業や収益事業も自由に行えるようになるため、支部会員のニーズに合わせた企画も立てやすくなることでしょう。支部会員の一人ひとりが積極的に支部活動や行事へ参加することにより、新たな出会いを得、明日への確かな一歩を踏み出せることを願っています。

事業報告・予定

10・30	全国シンポジウム 「改めて問う『国際社会と連携するNGO活動』とは」 於、女性と仕事の未来館 国際奨学生研究報告会 （国際奨学生委員会と共催）
12・5	講演会「ピラリン民族奨学生カルメラの住むむら」 講師 山崎登美子氏
12・15	新春のつどい・国内奨学金贈呈式 国際奨学生ダスカロヴァさんご招待 東京支部国際奨学金送金（2万円） ディアネさん（ルワンダ） 国連UNCHCR協会に寄付（3万円）
1・13	見学会「環七地下調節池・善福寺川取水施設見学」 国際奨学生研究報告会 （国際奨学生委員会と共催） 東京支部会報「ともしび」第49号発行
2・10	第10回自然科学講演会（科学研究奨励委員会と共催） 東京支部総会 記念講演 「女性の力と高等教育」 講師 久米健次氏
2・24	JAUW第54回通常総会 於、岡山
3・6	講演会「香」入門（匂い袋作りを含む）
3・25	
3・26	
4・16	
5・14	
5・15	
6・29	

以後の事業は追ってお知らせします。

## 支部会費の現状

— 知ってください、

東京支部のこと—

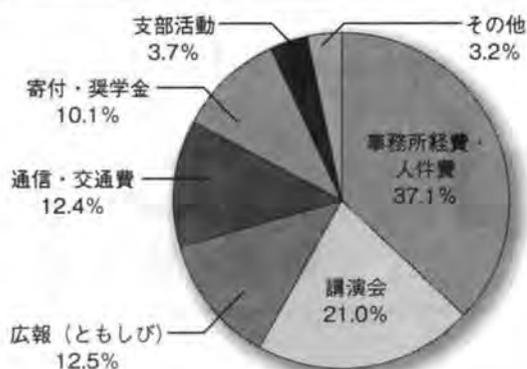


図2

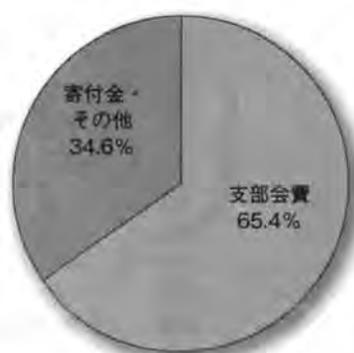


図1

会員の皆様には、年会費9千円を納入していただいておりますが、その内、3千円が支部会費に充てられています。新法人に移行後は、会費の使途も、新たに制約を受ける可能性があります。そこで、会費収支の現状をご理解いただきたく、2009年度の決算書を基に図示したのが、図1・図2です。

図1は、支部活動費の原資に占める支部会費の割合を表したものです。支部会費で賄われているのは、約65%で、不足分は繰越金や寄付金などに依存しています。

図2は、支出の内訳を表したものです。支出の筆頭の事務所経費・人件費は、東京支部が、本部事務所を本部と共用している関係で生じる本部への分担金です。

東京支部の会員数は2006年3月には450人でしたが、その後減少の一途を辿り、2011年2月現在では、335人に減っています。

図1で、支部会費の割合が小さく、図2で、事務所経費の負担割合が大きいのは、会員数の減少に伴う支部会費の減収に起因しています。従って、緊要の課題は、会員数の増加と会費納入率の向上と考えられます。

2010年シンポジウム「改めて問う『国際社会と連携するNGO活動』とは」に参加して

(10・10・30)



季節外れの台風接近による悪天候にも拘らず、「事業仕分け」にも登場した「女性と仕事の未来館」は全国から百数十名の会員及び一般の方々で埋まり、今回のシンポジウムへの関心の高さが伺えました。

今回は「国際社会と連携するNGO活動とは」をテーマに掲げ、一人ひとりが、今何ができるかを改めて考えるシンポジウムとなりました。特に印象に残ったのは次の点です。

前ユネスコ事務総長松浦晃一郎氏の基調講演の中で、「社会的問題、主に途上国における諸問題の改善に向けて、市民社会・NGOの役割が非常に重要である」ということです。政府だけでは対応できない諸問題に関して、市民社会の役割は大き

いと述べられました。私達に出来ることは正しい情報を得て周囲の人達と問題を共有し、活動に繋げていくことではないかと思いました。

次に、日本BPM連合会国際委員長平松昌子氏のお言葉で「支援は与えることではなく『持ちつ持たれつ』の関係であるべきで、NGOは社会貢献を実現する企業である」ということです。DV被害者であった人が、慰謝料を資金として同じ被害者救済のために立ち上げた活動が今では彼女を経済的に支えるまでになっている、という一例は「持ちつ持たれつ」の関係が「企業」として成立した例として感銘を受けました。

また、メキシコ総会に学生として参加された根岸えまさんが、「IFUW及び各国支部において若年層の会員がほとんどいない」という現状を指摘され、JAUWにおいても若年層への情報・広告が少ないと訴えられました。社会的問題は時代とともに変わっていくことを考えると、若い世代と意見交換の出来る場がもっと必要で、それが市民活動への関心の裾野を広げることに繋がるとはならないか、と考えさせられました。

東京支部の奨学金のあれこれと  
ピラード民族奨学生カルメラ

東京支部国際奨学金

支部長 小澤 紀子

〔奨学金制度の比較〕

本部や支部に奨学金の種類が増えてきて、関心ある会員の中からわかりにくいという声が開こえてきました。そこで支給する側と受け取る側を対応させて下の表にしました。

〔東京支部の国際奨学金制度〕

平成21年度に東京支部は新規に開発途上国にいる女性を支援する制度を立ち上げました。その理由を述べます。開発途上国では「高等教育機関」といっても、イメージが日本や欧米とは異なることに奨学生選考の際に気づきました。文学や物理などの学問をする以前に、生きる術を学ぶ研修所も現地では必要な高等教育機関なのです。その場合でも男子が優先され女子は後回しにされます。男女平等に教育を受ける社会を作ってほしいと願い、新設したのです。2頁の円グラフ、図2では101%の中に入っています。

奨学金名称	実施者	奨学生の条件	支給回数
国際奨学生	東京支部	開発途上国に居住して、現地の高等教育機関に在籍する女性	卒業するまで毎年
国際奨学生	JAUW	日本の研究機関に受け入れを認められた外国人女性	一度
国内奨学生 一般・ホームズ・ 社会福祉・安井	JAUW	文部科学省が認可する大学あるいは大学院に1年以上在籍する女子学生	一度
国内・国際奨学金	地方の支部 多数	支部規程による	支部規程による

〔第2回国際奨学生はカルメラ・タン  
ボンゴクさんに決定〕



カルメラさんはフィリピンミンダナオ島に家族と住み、7人兄弟の末っ子です。現在17才で大学一年生、教育学部で英文学を学んでいます。大学では寮生活をしています。現地の年収は平均2万円ですが、大学で学び、寮で生活するには年間6万円かかります。不足する学費は現地のミッション系の育英団体等が寄付で支援しています。東京支部が支給する額面では一人の学生を全て賄うことはできませんので、他の団体と併せることとなります。

10代半ばで結婚するのが当たり前の中であって、中退をしないで大学を卒業して欲しいと願っています。

第1回国際奨学生  
ディアネさんからの手紙

私は月曜から金曜の4時まで義足製作の仕事をし、そのあと学校に通い、会計、マネージメント、マーケティングなどの勉強をしています。

毎日夜10時まで2クラスあり、その後帰宅します。私の学校には約400人の学生がいて、ほぼ同年代の人たちです。あと2年でこの学校の勉強は終わりますが、そのあと療法士になるための勉強もしたいと思っています。勉強は大変ですが、時間の空いた時には教会に通ったり、ギターを弾いたりして余暇を過ごしています。また最近では物語を書くことに熱中していて、いつか私の書いた物語が映画になれば良いなと思います。

この度、学校に通うための費用を支援していただいたこと、本当に感謝しています。その支援のおかげで教科書などを買うことも出来ました。

これからも応援してください。人のためにも一生懸命勉強したいと思っています。どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

(英文)  
訳ルダシングワ・真美

〈東京支部講演会〉

(10・12・15)

「ピラーン民族奨学生  
カルメラの住むむら」

講師 山崎登美子氏

「ピラーン民族奨学生  
カルメラの住むむら」

カルメラさんは東京支部2010年度国際奨学生である。彼女はフィリピンのミンダナオ島にすむ先住民の女性。7人兄弟の末っ子、十七才で大学1年生。そんな彼女になぜ奨学金が必要なのか、その事情を山崎講師は論理的かつ心をこめて語られた。

山崎氏は1980年代半ば、地理の授業で使用了新聞記事「日本の大量の木材輸入で生活基盤を失った森の先住民」がきっかけとなり、教育支援の会に属してミンダナオを訪問された。1996年、鉱山や農業

資本による開発の波に翻弄され、より深刻な状況にあったピラーン民族と出会い、緊急性の高い医療支援中心の会を自ら設立。その後経済的自立を支える活動を加え「ピラーンの医療と自立を支える会(略称HANDS)」を現在に至るまで10数年継続されてきた。私も他のアジアの国のむらで同様の活動に参加してきたので、山崎氏の大変さが痛いほどわかり、頭の下がる思いがした。現地でも出されたご馳走でおなかをこわしたり、資金集めに苦労したり。活動は多岐にわたるが、特に感じしたのは貧困脱出、自立支援のための人材育成奨学金。教員、看護師、農業指導者と、むらのリーダーとしてすぐに役立つ分野にしほり、すでに卒業生がむらで活躍していること(日本の山村は高齢者ばかりで若者の職場がない)。

大学女性協会東京支部の奨学金、年間2万円はカルメラさんの父親の年収に相当する。外務省の援助金も多すぎて残してしまっただけという山崎氏のこと、きつと有効に生かされることであろう。なお、会場にはむらの女性たちがつくった伝統織が華をそえていた。

(向後紀代美)

## 東京支部サークル

## 「源氏物語」を読み終えて

加藤百合子

大学女性協会・東京支部のサークル活動として、1996年9月15日から「源氏物語を読む会」が発足しました。私も大学時代に(若紫)の講義を受けましたので、五十四帖全て古文で読んでみたいと、かねがね思っており、さっそくこの会に入会いたしました。

そして昨年末、15年の長きに亘り読み続けて参りました源氏物語を無事、読み終えることが出来ました。

この会を立ち上げられました坂上栄美子様は大学女性協会の会員で、東京支部



の支部長をされていらした時に、私も役員の一員として、坂上様の卓越した指導力のもとでお手伝いをさせて頂いておりました。先生の源氏物語はきつと私達に共感を与え、素晴らしいであろうと思っておりますが、予想通りこの15年間は私達会員を引き付け、ぐいぐい源氏の世界へと導いてくださいました。とか

く世間では、源氏物語は男女間の恋愛の部分で強調されているように思えますが、先生はむしろ光源氏や源氏を巡る女性達の心理描写に光を当てて、ご講義されました。それが正に作者・紫式部の言おうとしていることではなかったのでしょうか。

ところで、光源氏が我が世の春を謳歌し物語が佳境に入った頃、私は逆に体調を崩し癌センターに入院する破目になってしまいました。毎日辛い治療が続き、情けなく、気分も減入りがちでしたが、どうしてももう一度、先生のご講義をお仲間と一緒に受けたく、絶対治る//治ってみせる。の気持ちが高まり、辛い治療も頑張れました。そして今では、また皆様と一緒に「源氏」を楽しんで読み終わりました。

た。元氣になりましたのも、この会のお陰で本当にありがたく、私にとりまして「源氏」は心の支えであり、宝物となりました。

4月からはまた、先生は「伊勢物語」をご講義してくださいませることが決まり、何より嬉しく、是非私も病氣と付き合いなから参加したいと思っております。

〈新春のつどい〉

(11・1・8)

ブルガリアの  
ダスカロヴァ博士を招待して

まだ松の内気分が抜けない1月8日に恒例の新春のつどいが開かれました。いつもながら華やかな雰囲気の中に年明けを感じます。

午前中は国内奨学金が青木会長から奨学金を贈呈され、受賞対象となつた研究を5分間でスピーチします。この短時間に素人にもわかりやすい言葉にまとめておられました。

次いで余興として神田阿久鯉(あぐり)さんの講談がありました。演題はその場で決めるそうで、客に夫婦話と人情話のどちらがよいかと問い、もし話が面白くなかつたならば講師が下手ではなくて演題を選んだ客側に責任があると云って笑わせました。後半は皆さんしーんとして聞き入っていたように見えました。

会食は社会功労賞を受賞された今井けい様ご発声の乾杯に始まり、地方からも多くの参加をいただき、あちこちで賑わいました。

もう一つの呼び物はバザーです。本部と東京支部が店をだしました。ここで開くバザーは売り上げの収益を奨学金に充てます。お買い物を楽しみむと同時に奨学生の笑顔をも思い浮かべてください。

さて本会のお世話は本部財務委員

会が中心としてあたり、東京支部委員もお手伝いをしました。側で拝見しておりますと、正月休みも準備に忙殺されたのではないかと思えました。その大きな原因は、申し込みが出席返事の期限を過ぎてしまったために届くからです。担当者に余計な苦勞をかけないように、申し込みは期限を守るのがマナーでしょう。

今般は珍しく外国のお客様を東京支部が招待しました。ブルガリア大学女性協会の前会長を務めたクラツシミラ・ダスカロヴァ博士です。

一橋大学に3ヶ月間滞在して「沈黙を読む」ヨーロッパ内外諸国の現代歴史教科書に見る女性像とジェンダー関係」の研究を深めるそうです。たまたまお嬢様と日本滞在時期が重なつたようで一緒に参加いただきました。JAUW全国規模の行事は年3回あること、ブルガリアでは2回であることなど情報交換も含めて、雰囲気も十分に味わつておられました。面白いのは堪能な外国語が博士はロシア語、お嬢様は英語です。お国の政治情勢の変動を物語るものでした。終始つきそつてお世話くださいました平野国際奨学委員長に感謝いたします。



(小澤 紀子)

東京支部バザーの創意工夫のオリジナル作品



東京支部バザーの特色として、6年前からバッグとアクセサリーのオリジナル作品を販売しています。

「生まれ変わつてもバッグを作っていたい」という製作者に支えられて、各種大型、中型、小型のバッグ、カード用な

どの各種小物入れ、リュックサック他30種以上のオリジナル作品が今迄に出来ています。軽量、品の良さ、上質、安価、使い勝手が良い、を念頭に置いています。いずれも好評を得ています。

同時期スタートのアクセサリーの制作者は当会員です。色彩、素材、デザインなどトレンドで季節感を意識した作品を得意とし、注文者の希望にも応じて喜ばれています。

総会、講演会、新春のつどいなどにご出席の方はすでに実物をご覧になつていると思いますが、まだの会員の方は東京支部バザー係にお問い合わせください。バッグについては、思い出の古布、帯、着物の端切れなどでの製作もお受けしています。

売り上げは国内奨学金の一部に寄付されています。

※東京支部委員会の委員を募集しています！

毎月第2水曜日に委員会があります。メンバーが足りません。会員の皆様のご参加、ご協力は是非お願い申し上げます。

東京支部委員会一同

